

## 答辞

寒さも和らぎ始め、花々の芽吹きが新たな季節の到来を告げる頃となりました。本日は、私たち卒業生のために、このような式典を挙行していただき、誠にありがとうございます。高橋圭三学長先生をはじめとする教職員の皆様方に、松山東雲女子大学の卒業生を代表いたしましたして、心よりお礼申し上げます。本日、私たちは卒業の日を迎えます。

思い返せば四年前、私たちはそれぞれに期待や不安を抱え入学いたしました。その時の気持ちも今でも鮮明に思い出されます。大学生活の四年間は瞬く間に過ぎていきました。本日、私がこの場に立てているのは、教職員の皆様や友人、家族の支えがあったることだと思っています。

大学一年目は、慣れない九十分の講義や課題など、多くの場面において能動的に考え、選択し、行動することが求められ、大きな環境の変化についていくことで精一杯だったことを覚えていきます。

大学二年目は、新型コロナウイルスの影響で、オンライン授業への移行や実習の延期など、思いもよらない事態に不安を感じながら日々を過ごしました。

大学三年目は、対面での授業も増え、グループワークや実習を通して、新たな発見や刺激を得ることが出来ました。実習では、自身の至らなさに心が折れそうになることもありましたが、そんな中支えてくれた家族の存在は大きかったと感じています。

大学四年目は、最後の実習と大学生活の集大成としての卒業研究に取り組みました。自分の興味がある分野での学びを深めることのできた卒業研究はとても楽しく、論文を完成さ

せられたのは、私にとって大きな自信となりました。

あつという間の四年間。振り返ってみると、何気なく過ごしていた日々の一つ一つが、どれもかけがえのないものに感じられます。思うような大学生活が送れず、不安なことも、辛かったこともたくさんありましたが、コロナ禍を乗り越え、支え合い学んでこられたことを自信にして、これからの人生を歩んでいきます。また、周りの多くの人との巡り合わせを、心から幸せに思うと同時に、松山東雲女子大学で過ごした日々を、強く誇りに思います。

私たちはこれから、それぞれの思いを胸に別々の道へと進んでいきます。自分の選んだ道に誇りを持ち、学び続ける姿勢を大切に、周囲の方々への感謝の気持ちを忘れず、社会に貢献していくことを目指します。

最後になりましたが、先生方や職員の皆様、そして今日この日まで私たちを支えてくださったかけがえのない家族など、全ての方に心より御礼申し上げます。

皆様のご健康と松山東雲女子大学の一層のご発展をお祈り申し上げます、答辞とさせていただきます。

二〇二三年三月十日

松山東雲女子大学 卒業生代表 樽茶実侑